

## 「魅力ある学校づくり調査研究事業」（令和2年度）の取組

本校では本事業における全体像を構築し、学力向上（わかる・できる指導）と生徒指導を取組の大きな2本の柱として活動に取り組むこととした。

### 1. 学力向上における取組

#### (1) 提案授業①と授業研究【7月13日（月）】

授業改善と指導力向上の取組として提案授業（理科）と授業研究を実施した。授業づくりの視点（①学び合いや交流の前に自己決定の場を設定する。②場面に応じたペア・グループ活動を設定する。③「活用問題」を通して課題解決を図る。④授業連動型家庭学習課題を与える。）を明確にし、教科横断的に取り組めるように教師間で共通理解、共通実践することを確認した。



研究授業（理科）の様子



授業研究におけるグループ討議の様子

#### (2) 各教科における授業改善の実践中間報告会【11月16日（月）】

各教科の取組の進捗状況を確認し、共有する場として実践中間報告会を行った。社会科・英語科の実践発表を通して、教科横断的な実践事項を再確認し、他教科の実践を参考にすることができた。



研究授業（英語科）の様子

### (3) 提案授業②と講話【12月10日(木)】

県総合教育センターの當研究主事を招へいし、数学の提案授業及び『主体的・対話的で深い学びについて』の講話を行っていただきました。授業の組み立て方や学び合いの実際で、理解を深めることができました。また、講話ではこれまでの実践を踏まえた経験談や主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業のさらなる構築についてご教授いただきました。



當研究主事による提案授業の様子



グループ活動における学び合いの場面



講話の様子



本校職員による研究授業（数学科）の様子

## 2. 生徒指導における取組

### (1) 構成的グループエンカウターの実践

本年度から本校区（7小中）における共通実践事項として構成的グループエンカウターを小学校1年生から中学校3年生までの9年間において継続的な取組をスタートさせた。自己理解や他者理解を深めることで自己有用感をもたせる取組である。このことは、新たな活動を実施・開発することを目的とするものではなく、これまでの学校・学年で大切に行ってきた取組を、計画的・継続的に点検・見直しを行い、取組の「浸透性」を高めることを重視するものである。



構成的グループエンカウンターの取組①



構成的グループエンカウンターの取組②

## (2) アンガーストレスマネジメントの取組

昨年度から短学活を利用して、リラックスタイムを実施している。週に1回、各教室の電気を消し、カーテンを閉めて静かな環境をつくり、筋弛緩法や呼吸法などストレスマネジメントを毎回3分程度行っている。

## 3. 成果と課題

生徒によるアンケート調査より（令和3年3月実施分）

回答（4 あてはまる 3 どちらかというにあてはまる 2 どちらかというにあてはまらない 1 あてはまらない）  
4段階で4の生徒（3・4の生徒）（%）

	学校が楽しい	みんなで何かをするのは楽しい	授業に主体的に取り組んでいる	授業がよくわかる
1年	63.1 (93.8)	73.1 (93.8)	51.5 (94.6)	46.2 (94.6)
2年	58.8 (95.3)	67.6 (96.6)	35.1 (94.6)	31.8 (91.2)
3年	45.5 (92.3)	61.5 (93.1)	36.2 (94.6)	29.2 (95.4)

学期末に生徒アンケートを実施することで、本研究の取組の成果や生徒の変容に気づけるようになり、課題を全職員で共有し、次の実践事項を確認する時間の設定ができるようになった。また、事前に生徒の変容を予測しておくことで、教師側も事前の対応・対策ができているように感じた。学力向上・生徒指導の取組ともにより綿密な計画や立案の必要性を感じている。来年度は、本研究の2年目を迎える。よりよい取組になるように、今後も全職員で共通理解・共通実践を行っていききたい。